



ふれあい

2014年10月
現在の会員数
男性 1,270名
女性 484名
合計 1,754名

2014年/11月
143号

題字 府中市長 高野律雄 書

公益社団法人府中市シルバー人材センター発行/府中市寿町3-2 ふれあい会館2F/TEL042-366-2322



シルバー人材センターフェア



第54回商工まつり

●目次

■高野市長とセンター役員との懇談会	2
■26年度班長研修開催	2
■第54回府中商工まつり	3
■第17回安全推進大会開催	3
■会員親睦会日帰りバス旅行	4
■交通安全市民のつどい	4
■西府地域懇談会	4
■四谷地域懇談会	5
■働く会員の職場訪問	5
■生涯現役！輝く会員さん	6
■住吉地域ボランティア活動	6
■清掃研修の開催	7
■シルバー俳句・川柳	7

高野市長とセンター役員との懇談会

8月20日午後4時からふれあい会館にて高野府中市長はじめ川田福祉保健部長、棟方会長と小林副会長他各理事と監事出席のもと開催されました。

会長の挨拶、市長の挨拶の後、会長・各委員会の委員長より市長への要望発言がありました。

●要望事項は以下の通りです。

棟方会長◆補助金の確保、市からの発注事業の拡大について要望。

宮澤総務委員長◆会員増強と、特に女性会員の拡大を図るための研修や懇談会での市施設の使用。

近藤業務委員長◆「お助け隊」活動への支援と介護・育児等女性会員が就労できる業務と他団体との業務分担の整備と業務の維持拡大。

徳田広報委員長◆市広報へのセンター掲載枠の拡大や市のホームページからセンターのホームページへのアクセスリンク枠の追加。

田嶋地域委員長◆市やNPO団体などと協働して地域ボランティア

ア活動を推進するための情報の提供。

澤村安全委員長◆会員の安全・健康管理が第一、高齢者の交通事故予防として「自転車の安全講習」の開催を市と連携して実施する。

高野市長と福祉保健部長から意見と感想があり懇談会終了後に懇親会が行われました。



26年度班長研修開催

班長研修が7月24日(木)ふれあい会館にて地域班長、地域委員65名が出席して開催されました。研修は会員との接点にいる地域班長の活動がセンター運営に大きく影響することから毎年行われていきます。今回は地域委員1名、班長7名が交代しました。

冒頭に棟方会長の挨拶があり、続いて地域委員全員の紹介があり、その後、松田常務理事から公益法人移行4年目の「当センターの現状と課題」について説明がありました。主な課題は

- ◆「財務状況は一段と厳しくなっている」
- ◆「お客様により信頼されるセンターが求められている」
- ◆「地域社会への奉仕活動のなお一層の推進が必要」
- ◆「安全就業と健康管理の推進について」等の発表がありました。

続いて「地域班長の役割と地域活動」について

◆「センターの目的は働く意欲を持つている健康な高齢者のために、

その知識経験に沿った就業機会を確保し、会員の生活感の充実と地域社会づくりに貢献すること」

◆そのための「班長の役割はセンターと連絡を密にし、会員相互の連帯意識の高揚と親睦を図り、共働共助を推進すること」等の説明がありました。

続いて田嶋地域委員長から本年度の地域懇談会の計画、地域ボランティア活動や商工まつり、シルバニアの説明がありました。

松本副委員長から「10年以上担当の班長さんが多数おられる。後継者の育成が急務です」との閉会の挨拶がありました。



第54回府中商工まつり

8月8日から10日までの3日間、第54回商工まつりが大國魂神社で開催されました。今年は市制施行60周年記念行事のひとつでもあり「笑顔あふれる夏祭り」がテーマです。

主な催しは「どじょうのつかみ取り競争」「ミス府中コンテスト」「ミニコンサート」「よさこい鳴子踊り」「サンバカーニバル」などと盛りだくさんです。

会場となった境内は、ところせましと大きなテント、小さなテントがひしめき合っていました。

当センターは昨年と同じメインストリートのくす玉ゲートをくぐってすぐ左側にテントを張っていました。運営は地域委員会が主体で、地域委員と班長さんが午前・午後、各5名ずつ交代で当番に当たっていました。内容はセンターの紹介と子供を対象とした「スーパーボールすくい」です。

スーパーボールすくいは、1回50円と手軽なため大人気で順番を待っている子供もいたほどです。



2日目はセンターの「小物班」が隣のテントに出店し、「袋物」や「UV手袋」「財布」などセンター会員の手作り作品を販売しました。

3日目は生憎と台風11号の影響で朝から大雨で、参道の石畳は一時くるぶしまで冠水し、歩くことすら困難な状態になりました。主催者側から午前11時頃「本日の行事はすべて中止」との決定が伝わりました。センターのテント内も地面に水が溜まっていたところなので、急いで撤去作業に入り、今年の商工まつりは終わりました。

第17回安全推進大会

AEDを使った 応急救護講習

7月18日(金)に、ふれあい会館の第四会議室で「第17回安全推進大会」が開催されました。この日のテーマは「AEDを使った応急救護講習」で、40名を超える参加者が有り盛況でした。

安全委員会の澤村委員長の開会あいさつと、センターの松田常務理事のあいさつで開始されました。

講習には東京消防庁府中消防署から2名の講師の方が来られましと、救急搬送の半数近くが高齢者です。加齢に伴う身体機能の低下を知り事前に事故にあわないように心掛ける事が重要と話されました。さらに、夏の熱中症の予防について、高齢者が特に注意する点について説明がありました。

メインテーマのAED(自動体外式除細動器)の使用法の説明は、会議室の机が片付けられたスペースにAEDと人体模型が10セット程度用意されて、その場所での実際の使用手順の説明がありました。

●119番通報とAEDの依頼



●胸骨圧迫

●AEDの使用

各手順について実技と注意事項の説明があり、特に119番通報の注意点やAED設置場所の問題点や探す場合の要領等の具体的で役に立つ説明がありました。参加者からの質問と、希望者は実際にAEDの操作法を体験して終了しました。

府中消防署では、本日の様な内容の「普通救命講習」を実施しておりますので、参加出来なかった方は受講をご検討ください。

次回の安全推進大会は1月23日で認知症がテーマの予定です。

会員親睦会 日帰りバス旅行

6月1日に発足した府中シルバー会員親睦会の行事「日帰りバス旅行」が9月18日に行われました。

府中市駐車場に集合。予定を上回る85名の参加者が2台のバスに分乗し、7時25分出発。車中、棟方会長・西隈幹事長などの方々からご挨拶を頂き、富士スバルラインに入り、9時40分富士山五合目に到着して小御岳神社に参拝しました。自然遺産に登録された影響もあり、外国人観光客の姿が多く見られました。生憎の曇りの上、霧も少しあり、残念ながら山頂を拝むことはできませんでした。

10時15分に五合目を出発し、次の目的地「ロリアンワイン工場」に行き見学を行った後、それぞれ好みのワイン・果汁飲料・ブドウ焼酎の試飲を楽しみました。

昼食は、ホテル「ふじ」で和・洋・中のバイキング形式の料理が用意されていました。

午後は「いちのみや里の駅」での「季節の野菜詰め放題」。ビニールの袋にキュウリ、なす、人参、玉葱、じゃが



いも、ピーマン等を何とか一つでも多く詰め込もうと競い合いました。

つぎの目的地、勝沼ぶどう園「金原園」には14時50分に到着、テーブルに用意されているピオーネ、巨峰、マスカット、デラウェアなど次々と食べ比べてお土産にぶどうを一箱頂き15時30分帰途に着きました。

車中では、お酒や、サイダー、お茶などもふるまわれ、和やかな雰囲気の中、出発地の府中に予定より早く到着することができました。

西隈幹事長はじめ幹事会の方々の努力によって実現した今回の旅行でしたが、事故や怪我もなく皆さんが楽しく過ごし、大成功に終わることができました。

交通安全 市民のつどい

9月7日(日)の交通安全パレードは早朝の小雨のため中止になりました。その後の、府中グリーンプラザげやきホールでの交通安全市民のつどいは、予定通り午後2時から開催されました。交通安全パレードと市民のつどいは、秋の交通安全運動(9月21日～30日)に先立ち、府中警察署の主催で開催されたものです。

府中第一小学校わかば鼓笛隊の演奏で始まりました。

式典では主催の高野府中市長、岸本府中警察署長、林府中交通安全協会長の挨拶が有りました。10名程の来賓の中で当センターの棟方会長の紹介もありました。

府中市出身の安めぐみさんが1日署長として登壇し、交通安全教室では交通安全について分かりやすい説明があり、会場は拍手と笑いで盛り上がりました。

今年の秋の全国交通安全運動では、運動の基本に「子供と高齢者の交通事故防止」が掲げられています。さらに重点項目の中で「夕

暮れ時と夜間の歩行中・自転車乗用中の交通事故防止」と「二輪車の交通事故防止」が挙げられています。身近な毎日の生活の中で注意を心掛けたいと思います。



西府地域懇談会

本年度最初の地域懇談会が9月26日西府文化センターで43名の参加で開催。棟方会長、松本理事、伊澤主事の挨拶の後に会員との懇談が行われました。

主な質問は①8月の就業率②会員の地域構成③会員親睦会④会議補助費⑤配分金等で会長が丁寧回答しておられました。

注目すべきは、30%と高参加率だったことです。この数値は班長さんの並々ならぬ訪問作戦の結果とことです。進め方も司会役熊沢地域委員のアイデアで一律発言をやめ、初参加、班代表、有志の発言と3区分し、それぞれの方々が積極的にセンター人生が披露されています。「センターに入会して、知識を高め、友好を広め、信頼関係を深くでき大変良かった」との発言が多く2時間半に亘る実りある会合になりました。

四谷地域懇談会

9月28日(日)の午後、四谷文化センターで開催され、センターから松田常務理事と齋藤事務局長代理が出席されました。

佐藤班長の司会で開会し、松田常務理事よりセンターの現状と課題について説明がありました。次に松本地域担当理事より今後の主



な行事の紹介等がありました。林崎地域委員からは、四谷地域の会員増への活動と、年2回の懇談会開催や11、12月に実施の地域ボランティア清掃への積極的な参加で地域活動の活性化が要請されました。

続いて出席の会員にマイクが渡され、順に自己紹介や仕事に対する意見などの発言がありました。

後半では、よつや苑介護支援専門委員の協力により、全員参加の健康診断(元気度チェック)が行われ、7項目について器具を使用した測定が実施されました。

重要な点は「適切な運動を習慣にすること」だそうです。

「働く会員の職場訪問」 除草班

9月12日(金)に除草班の荒木班長以下10名による、西府町第2市民農園の除草作業の取材をしました。9月半ばの炎天下で朝からスタートして、午後3時過ぎまでの作業は厳しいものでした。

雑草を取り除いた後も、鎌で地中の根まで掘り起こす念入りな作業でした。皆さん持参の鎌や小型の熊手は良く手入れが行き届いて、手に馴染んでいるという感じが伝わり感心しました。

農園の除草が終了し、草や枝葉を袋に片付けてから自分の道具も手早く掃除をして衣類の汚れを落し着替える方もいて、その元気で余裕の表情に驚かされました。

荒木班長のお話では、最も気を付けていることは安全に関する事だそうです。暑さや寒さによる体調の問題や、自宅から作業場所までの自転車等の移動時の安全や、作業中の道具や害虫によるケガなどの防止です。刈払機での器物の破損は頭の痛い問題のようです。

現在、除草班には約60名の方が就業しており、今日取材した荒木班長の第1班ほか6つの班に分か



れて活動しています。仕事は一般家庭や民間企業からの除草と、今回のような公共の市民農園・運動施設等の除草などで、小さい仕事から大きい仕事まで年間約1600件の受注が有ります。

除草作業に就業するためには、最初にふれあい会館で行われる説明会に参加、その後、実際の除草の現場で体験研修を受け、作業が可能と判断されてから加入という事になります。

生涯現役！輝く会員さん

①

大ベテランの沼きくさん



「初仕事は踏んだり蹴ったりでした」そう口火を切った沼きくさんがセンターに登録したのは、今から22年前の1992年。「2000枚ものチラシを自転車に積んで配布している途中で雨が降り出して。チラシをかばって自分ばかり濡れになってしまったんです」。

「シルバーパスの更新事務」も忘れられない仕事のひとつ。その当時、京王府中駅に机を並べ、身分証明書を確認しながら1000円と引き換えにパスを渡したのですが、初めてということもあり、10人以上でもってこ舞いで駅の階段の下まで並んでしまったそうです。

春の入学・卒業シーズンや夏の浴衣など、申し込まれた方の自宅に着付けを手伝う「出張着物着付け」は、沼さんも関わってようやく軌道に乗り始めました。「娘に自

分の手で着物を着せてあげたい」と思い立って、教室に通い着付けの資格を取ったのは40代の頃、「何でもやり出したら中途半端で投げ出さないで、とことんやってしまします」と笑う沼さん。現在、申し込み者と着付けをする会員とのコーディネーター役をされています。

長く理事も務められた沼さんにとって「健康に留意するようになり、仲間づくりの基盤になった」センター。「年寄りだから、シルバーだからという甘えや言い訳は通用しません。責任を持ってほしい」と苦言を呈し、「第二の人生なのだから、これまでのことに捉われないで、どんな仕事にも挑戦することが継続の秘訣」と新入りの筆者にもエールをいただきました。

ゲートボール歴30年、今も試合に出られているとのこと。いつまでもお元気で活躍してください。

各地域のボランティア活動情報 住吉地域清掃ボランティア活動

7月19日(土)に、住吉地域の清掃ボランティアが実施されました。住吉地域では清掃ボランティア活動を、毎月第3土曜日に定例的に実施しています。

集合場所は住吉文化センターで集合時間は午前8時と決まっています。巡回ルートも中河原駅の周辺を清掃するルートと下河原緑道周辺を清掃するルートの、2つの班に分かれて1時間ほど清掃活動をして、出発点の住吉文化センターに戻ります。そして、文化センターの裏庭で収集したゴミの分別の再確認を実施して、文化センターのゴミ置場に収納し終了となります。

この朝も役員の方から、ゴミをつかむトンダや軍手や所定のゴミ袋が渡され、出席の確認をとり2班に分かれてスタートしました。曇り空のおかげで、数日前の最高気温30度を超える日が信じられないぐらいに、爽やかな早朝でした。順路の周辺の樹木や歩道の植栽の緑を楽しみながら、目につくゴミを拾って1周しました。文化センター裏で

ゴミの分別再確認を終了して、9時半頃には参加した皆さんが毎月の定例行事を終了して帰宅されました。

今年は2月の活動が大雪で中止となりましたが、1月～7月の6回の平均参加人員は23名です。このように約3年続いている、このボランティア活動が定着した活動となっているのは、地域のセンター会員の協力と、地域役員の方の事前準備のお蔭であると感じました。



清掃研修の開催

9月22日(月)午後1時からふれあい会館で清掃研修が実施されました。この研修は、現在屋内清掃に携わっている会員と未就業の会員も対象に、外部講師(響城れい先生)を招いて効果的な秘訣の習得を狙ったものです。

約40名の参加者は、事前に7班に班分けされて着席しました。松田常務理事の挨拶があり、研修が始まりました。

最初の全参加者の自己紹介から1人20秒に限定したタイマーを掲



げて進行を図る、ユニークなものでした。本日の受講生を素人とプロの中間の「セミプロ」と位置付け、お客様の満足は感情・マナーが8割と技術が2割であるとか、「汚れをとる」に「こだわらず「広く浅く巡回」が優先する等の説明がありました。

実技では、持参の古新聞の効果的な使い方の説明後、班毎にふれあい会館の指定の場所のガラス磨きを実践して、古新聞の効果を確認して終了しました。

第1回広報委員会 アンケートの集計結果

前号のアンケート調査はご協力により58枚の回収となりました。

回答内容をまとめると、**広報紙ふれあい**は良く読まれており、**掲示板**は認知度が低く、数が少ないと指摘されました。**ホームページ**は、たまに見るといふ回答が多く、機器の所有の問題もあるようです。自由記入欄は約半数の方の記入が有り、参考になるご意見が多くありました。これらの内容を、今後の広報活動に役立てたいと思います。ご協力有難うございました。

尚、厳正な抽選の上、30名様に図書カードをお送り致しました。

平成26年度主な行事予定

実施月 行事名

- 10月 府中市シルバー人材センターフェア(22〜23日) けやき並木清掃ボランティア(24日) リサイクルフェスタ(25日) 在会年数別会員研修(27〜29日) 11月 府中NPOボランティアまつり(29〜30日)
- 1月 役員班長合同懇談会(15日)
- 第2回安全推進大会(23日)
- 2月 第4回ふれあい作品展(20日〜23日)

会員就業心得

センター会員は、設立の目的及び基本理念を十分認識し、引き受けた仕事は責任をもって誠実に行うとともに就業の際は、挨拶、礼儀正しい態度、言葉、服装などにも細心の注意をはらい、お客様への対応は丁寧にわかりやすく行わなければなりません。

シルバー俳句

野放図な 枝葉剪定 翳雲
敗戦忌 沖繩の色 海の青

安倍 将

川柳

毒舌すぎて LEDに あやかりたい

青柳奎吾

イスラム国 知らない内に 国が増え

鏡 陽次

紅葉狩り どうして捕るのと 孫は言い

鏡 陽次

愛犬が シツポを振って 散歩をねだり

宇山浩男

秋晴れに 散歩をするか お昼寝か

(会員からの川柳・俳句を募集しています。)

編集後記

今回の府中市長とセンター役員との懇談会は川田福祉保健部長と当センター松田常務理事共に初参加の会合でした。

市民の高齢化による介護の問題、女性の仕事と子育ての両立のための保育の問題など協働共助の必要な時代の到来による対応が話し合われました。

また新しく発足した「シルバー会員親睦会」主催のバス旅行に多数の会員が参加された様子、生涯現役を实践されている「輝く会員さん」を紹介するコラムも始めました。

(広報委員会 徳田)



高野市長とセンター役員との懇談会



第17回安全推進大会



第54回商工まつり



第54回商工まつり



会員親睦会日帰りバス旅行



四谷地域懇談会



交通安全市民のつどい



住吉地域ボランティア活動